

2026年4月1日
株式会社SVPジャパン

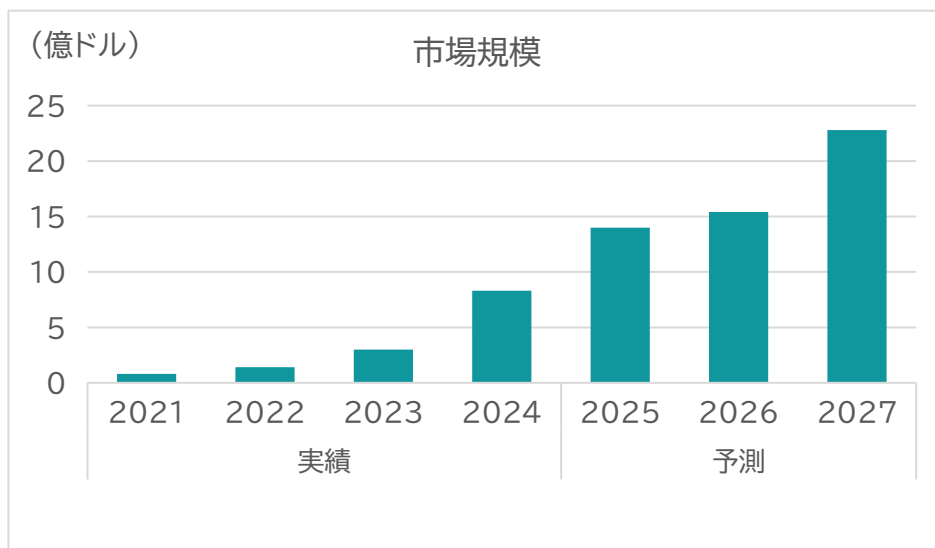
SVP注目市場分析 「ローカルLLM」を公開

～世界市場の現状と将来展望～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「ローカルLLM-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ ローカルLLMの世界市場



自社環境でAIを稼働させる「ローカルLLM（Large Language Models）」が急速に注目を集めている。従来のクラウドAPI型は、機密情報漏洩リスクやコストの不透明性、ネットワーク遅延といった課題を抱えており、企業の実運用における制約となっていた。これに対しローカルLLMは、オンプレミス化により3年間で30～50%のコスト削減が可能と試算されている。さらに、GDPRやEU AI法などの規制強化やデータ主権意識の高まり、オープンモデルの進化も追い風となり、自社環境で高性能AIを運用する流れが加速している。中でも、軽量モデルやエッジAIは実運用との親和性が高く、2027年にはエンタープライズLLMの約3割がローカル環境で運用される見通しである。「AIをどこに配置し、誰が支配するか」。データ主権は重要課題のため、この市場は注目を集めている。

■ ローカルLLMの市場概況

モデル、ハードウェア、ソフトウェア、アプリケーション、運用基盤といった多層構造で成り立つローカルLLM市場では、単一企業ではなく各レイヤーの主導権争いが競争の本質となっている。特にAIサーバー分野では主要数社が市場の過半を握る一方、推論基盤ではオープンソースが事実上の標準となり、競争軸は性能から運用性・コスト・ガバナンスへと移行している。一方で、数千万円規模の初期投資や電力負荷、人材不足といった「実装の壁」は依然として高く、企業には高度な運用能力が求められる。こうした中、日本市場ではAI推進法を背景に、国産モデルや国内インフラへの投資が加速し、「AIの地産地消」へと向かう動きが顕在化している。製造業を中心に現場知のデジタル化も進展し、正確性・安全性を重視する独自の需要構造がローカルLLMの普及を後押ししている。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造
- VII. 課題
- VIII. 日本市場の動向



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

5月のテーマは「MI（マテリアルズ・インフォマティクス）」と「メタバース・産業デジタルツイン」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com